

ベニゴマオカタニシ *Georissa shikokuensis* Amano

【選定理由】

愛知県下では、豊橋市の石巻山山頂部および嵩山(すせ)の石灰岩地だけに生息する稀少種である。同所では個体数も多く、現時点では個体群の減少傾向は認められないが、この地の狭い範囲のみに生息する生物地理学的にも貴重な個体群であることから、保護すべき種である。中部地方においても、石巻山・嵩山と静岡県西部の石灰岩地に局地的に分布する個体群であり、周辺地域には信頼できる分布および生息記録が殆ど認められないことから、きわめて重要な個体群である。環境省レッドデータブック(2014)では絶滅危惧Ⅱ類の種とされ、分布の不連続さや石灰岩地への狭い生息環境であることから、同様に絶滅を危惧されている(上島, 2014)。愛知県下では、現状では明確な減少傾向は認められないが、あまりにも狭い範囲のみに生息する種であることから、環境の変化が生ずれば、直ちに絶滅の危機に瀕する可能性が高い。そのため、全国的にも絶滅が危惧される種であり、生息地が局所的であることから、愛知県下では、絶滅の危険性の高い種に位置付けられる。

【形態】

成貝は、殻長2.3 mm、殻径1.6 mm程度の、淡い赤色でタニシ形の微小種である。殻は薄いものの丈夫で、各螺層にはごく細く繊細な螺溝が多数刻まれる。臍孔部は、軸唇の滑層が伸展して塞がれる。蓋は、種子形状の半円形で石灰質であり、内面下方内側に細く短い突起(peg)を有する。軟体は白色で、物の基部に黒色の小さな眼を有する。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋市の石巻山山頂部および嵩山の石灰岩地だけに分布する(野々部・他, 1984)。

【世界および国内の分布】

日本固有種。栃木県葛生町会沢(宇津野洞窟入口付近; 1989.8.2採取)が、本種の最北東分布地である(早瀬・波部, 1991)。本州ではこのほか、愛知県(石巻山・嵩山)・静岡県(浜松市北区、浜北区、天竜区南部の一部の石灰岩地)(増田・波部, 1989; 加藤, 2019)、山口県(福田・他, 1992)に明確な分布地が不連続的に知られる。また、四国山脈から大分県にかけての石灰岩地での分布も知られる(神田, 1992; 財団法人 自然環境研究センター, 2010)。本州では、長野県飯田市和田にも本種の記録があるが、再発見されない(飯島, 2018)。さらに、岐阜県にも本種の分布記録が多く見られるものの、岐阜県の記録のほぼ全てが、石灰岩地に生息するゴマオカタニシの誤認記録となる可能性が高い。

【生息地の環境／生態的特性】

愛知県内での本種の確認地の環境は、豊橋市の石巻山山頂部および嵩山の石灰岩地である。本種は、石灰岩露頭の石灰岩の表面の窪みなどに付着して生涯生息する、石灰岩地域固有種である。石灰岩に着生する藻類などを摂食するものと推測される。具体的に石灰岩の何に依存しているのか不明であるが、本種の生息には、石灰岩地および、そこに見られる石灰岩の露頭が不可欠である。

【現在の生息状況／減少の要因】

愛知県内では、石巻山山頂部および嵩山の石灰岩地だけに生息している種である。石灰岩露頭の岩盤表面に多数の個体が付着している。現時点では、大きな減少傾向は認められないが、近年の異常気象に起因する夏季の高温や豪雨などによる土壌の流出なども、今後、本種の生息環境に影響を及ぼす可能性は大きいものと考えられる。現時点では、愛知県下の個体群の減少傾向は確認されていないが、生息場所はきわめて狭く局所的であり、石灰岩地の乾燥化など、生息地周囲での環境の悪化などがあれば直ちに個体群消滅につながる。

【保全上の留意点】

生息地の石巻山および嵩山は、石巻山多米県立自然公園に位置しているほか、石巻山山頂付近の「石巻山石灰岩地植物群落」は国の天然記念物に指定されており、生息地の環境は一応保護されている。

本種の生息が確認される石巻山山頂部および嵩山の自然環境を維持することが重要である。

【特記事項】

本種は、沖縄県に生息するフクダゴマオカタニシ *G. hukudai* Kuroda, 1960 と近縁で、姉妹群の関係にある(狩野・福森, 2016)とされる。南西諸島を主分布域とする種(フクダゴマオカタニシ)と本州・四国・九州の種(ベニゴマオカタニシ)が、きわめて近い種間関係に位置することは、南方を主分布域とするグループが、鳥などに運ばれ、偶然、生息適地にたどり着くことができた個体が個体群を維持したものと推測され、本州などに分散できた個体群がベニゴマオカタニシへと種分化した過程が推測される。

宮崎県には、県南部の1箇所だけにフクダゴマオカタニシが生息し、南西諸島から海流などにより運ばれてきたものと推測されている(西・西, 2018)。

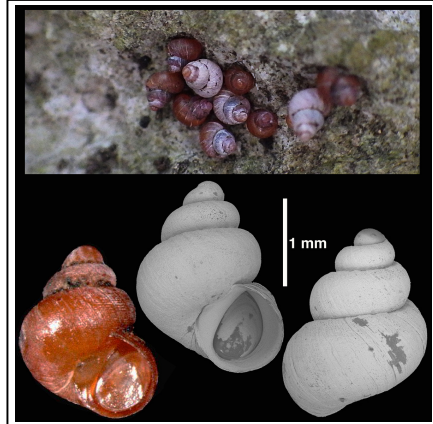
【引用文献】

- 福田 宏・増野和幸・杉村智幸, 1992. 概説 山口県の貝類, 99 pp. + 50 pls. + xxvi. 山口県立山口博物館, 山口。  
早瀬善正・波部忠重, 1991. ベニゴマオカタニシ栃木県葛生石灰岩地に分布, ちりばたん, 21 (4): 93。  
飯島邦昭, 2018. 長野県産産・淡水産貝類誌, 160 pp. 自刊, 下條村。  
神田正人, 1992. 大分県産産貝類誌, 160 pp. 自刊。  
狩野泰則・福森啓昌, 2016. ゴマオカタニシ類の進化と邦産種の多様性, 日本貝類学会平成28年度大会(習志野)研究発表要旨集, p.39. 日本貝類学会, 東京。  
加藤 徹, 2019. ベニゴマオカタニシ, p.467. in: 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課(編), まもりたい静岡県の野生生物 2019-静岡県レッドデータブック-動物編>, 539 pp. 静岡県, 静岡。  
([http://www.pref.shizuoka.jp/kankyou/ka-070/wild/red\\_data03.html](http://www.pref.shizuoka.jp/kankyou/ka-070/wild/red_data03.html))  
増田 修・波部忠重, 1989. 静岡県産淡水産貝類相, 東海大学自然史博物館研究報告, (3): 1-82 + 3 color pls. + xiv pls.  
西 邦雄・西 浩孝, 2018. 宮崎県のカタツムリ, 149 pp. 自刊(黒潮出版), 宮崎。  
野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類, pp.23-40. in: 佐藤正孝・安藤 尚(編), 愛知の動物, 325pp. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋。  
上島 励, 2014. ベニゴマオカタニシ, p.259. in: 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(編) レッドデータブック 2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生生物 - 6 貝類, 口絵8 + xliii + 455pp. ぎょうせい, 東京。  
財団法人 自然環境研究センター, 2010. ベニゴマオカタニシ, p.733. in: 自然環境保全基礎調査 日本の動物分布図集, 1070 pp. 環境省自然保護局 生物多様性センター, 富士吉田。

【関連文献】

- 東 正雄, 1995. 原色日本陸産貝類図鑑 増補改訂版, xvi + 80 pls. + 343 pp. 保育社, 大阪。  
高知県レッドデータブック [動物編] 編集委員会(編), 2002. 高知県レッドデータブック [動物編] 高知県の絶滅の恐れのある野生動物, 440 pp. 高知県文化環境部 環境保全課, 高知。

(早瀬善正)



石巻山山頂部, 上段: 2019年10月28日, 下段: 2008年7月9日, 木村昭一撮影, 採集